

観 察 記 録

ポロ沼・クッチャロ湖

1975年度

山 内 昇

月 日	天 候	コハク	オオハク	合 計	備 考
50. 3. 13	晴	4		4	午前7時頃北東方より4羽飛来
16	晴	5		5	クッチャロ湖結氷のためベニヤ古川で
17	晴	11		11	未明ベニヤの古川港寄りに11羽観察する。クッチャロ湖は結氷しているので採餌ができなく港の近くにいる。
19	晴 曇				17日と変わらない。
24	小 雪	32		32	クッチャロ湖に飛来したが、すぐベニヤへ飛立つ。港の近い川口で採餌していた。
25	雨 雪	4		4	クッチャロ湖へ幼鳥2、成2氷上に飛来。ベニヤは今日は未調査。
26	曇 晴	36		36	クッチャロ湖へ36羽の飛来ある。
27	曇	54		54	
29	曇 雨	141		141	近頃の暖気で川口近くに水面が開き、その水面に141羽のコハク飛来ある。
30	曇 吹雪	152	5	157	オオハクが1群で5羽観察する。他はコハクである。
50. 4. 4	晴			276	夜空の白鳥の鳴声で大群の飛来があると思う。
5	晴	970		970	南西の風で強風の中飛来群も多い。
7	晴	1,970		1,970	
10	曇	2,140		2,140	未明カウントする。強風で餌場近くに流氷が寄りつき、夕方300羽以上増える。
14	曇				カウントせず山階鳥類研究所・吉井氏と、白鳥のバンテングを行う。コハク幼鳥に001Yの首環標識をつけて放鳥する。餌付が不十分なため思うように捕鳥ならず。
15	小 雨				昨日放鳥001Yも餌場に来る。
17	曇 小雨			2,700	001Yと成鳥2羽と共に200mほど沖合より。餌場に近寄る。
18	曇 晴			1,740	樺太やポロ沼方面飛去る。
19	曇		1	1,630	ポロ沼方面の移動が多く、オオハク幼鳥1

月 日	天 候	コハク	オオハク	合 計	備 考
50. 4. 20	曇			1,900 +	ベニヤ原生花園に 27 羽確認。未明に南西方行より多数群れが飛来する。
21	曇 晴	ポロ沼 1,100 クッチャロ湖 1,800		2,900 +	久しぶりでポロ沼の調査する氷上に1,100+クッチャロ湖の渡りを観察する。先日以来樺太方面にも渡去しているので今日までクッチャロ湖に飛来した数は 3,400 羽ほどと思う。
22	晴			1,800 +	白鳥の会・本田事務局長来町。クッチャロ湖観察。
23	晴			ポロ沼 1,600	ポロ沼の観察する。クッチャロ湖はカウントせず。昨夜の南西の風で樺太方面へ大群の移動あり。
26	晴			1,270	日本野鳥会柚木氏来町。クッチャロ湖観察。
27	雨				白鳥はポロ沼、樺太方面へ移動する。
28	曇 晴	15		117	
29	曇	15	1	15	
30	曇 晴	10	1	11	今日 4 月 30 には 11 羽 確認されず。
5. 1	曇 晴			9	
2	晴 曇	猿骨沼 ポロ沼		600 1,800	ポロ沼・猿骨沼で 2,400+ 羽確認する。猿骨沼にはあまり多く無いと思っていたが 600 羽カウントする。
4	曇	ポロ沼 猿骨沼		1,850 870	クッチャロ沼は不明。ポロ沼と猿骨沼と両沼で 2,720 羽余を確認する。
7	曇			6	クッチャロ刻は 6 羽のみ
9	曇			0	クッチャロ湖は全て飛来
15	曇			16	ポロ沼のみ 16 羽 猿骨沼 0
21	曇				ポロ沼方面の調査するが、白鳥は不明。全て渡去した物と思う。
6. 1	晴			7	クッチャロ湖 2 羽、ポロ沼 5 羽。最近飛来した白鳥と思う。去る 21 日以来調査していたのだが、今日まで不明であった。
4	曇 晴				白鳥は発見されず、無事 した物と思う。
10. 12	曇	5			秋の初認である成鳥 2、幼鳥 3 羽 ベニヤ原生花園の古川で観察する。
14	晴	15		15	クッチャロ湖の大沼に飛来する。
15	曇 雨	22		22	
16	曇 晴	24		24	夜南下する白鳥の声を聞く。
18	晴			41	小沼に 26 羽 大沼に 15 羽

月 日	天 候	コハク	オオハク	合 計	備 考
50.10.21	雨		7	62	
24	雨			4	21日 62羽カウントしたが、今日は4羽より確かめられず、南下したのか？
26	快 晴			200	クッチャロ湖大沼に9群ほどで200羽ほど渡来。
28	晴 大雨			290	
29	曇			420	渡来群の中には幼鳥は少なく、本年春の繁殖地の気象上との関係があったかも知れない。夜大群飛来する声がある。
30	雨				
31	晴			1,260	
11. 1	晴			1,740	舟外機の舟で湖の調査する。
2	晴	1,740	290	2,000 +	
3	晴 雨				昨夜より南下の大移動あり、近々雪も降るのではないか。正午頃より500～700羽渡去る。
4	晴				猿払 石炭別の山中で南西方行へ飛去る42羽の群れを観察する。湖では冷込が激しく薄氷が張る。
5	晴			300 +	南下して数は少なくなった。
6	晴			370	未明は220羽より数えられず。夕方には数も増す。
7	曇 晴			70	小沼のみ70羽
10	晴			340	小沼の一番奥に20～30羽余を観る。
11	晴			460	南西位置(クッチャロ湖大沼)氷が張る。
13	曇			140	遠望であるが、首に何かベルトのような物を巻つけていたが、黒く見えたが番号や色についても未確認。
14	曇			120	
17	曇		12	390	山階鳥類研究所の吉井室長より去る4月14日クッチャロ湖標識放鳥001Yコハク幼鳥が今日現在山形県酒田市で発見した、元気であるとの祝電を頂く。只1羽の放鳥であれば確認するまで不安であった。
21	曇 晴			160	この中で60羽近い幼鳥が混じる。今年最低の冷込でクッチャロ湖は氷が張るが、この様な遅く幼鳥が多いのは春から夏の気候の問題(シベリヤ方面)を考えて見るべきではないか？クッチャロ湖も氷が張っているのに樺太方面も結氷したものと思うが幼鳥の飛来が遅いのは繁殖の遅れのためと思う。
23	曇 雪	66		66	国民宿舎下方の氷の上で群れる。

月 日	天 候	コハク	オオハク	合 計	備 考
50.11.26	曇	236	14	250	クッチャロ湖は全面結氷し、どこにも水面がないが新しく飛来したと思われる亜成鳥グループ・幼鳥7羽も混る。吹雪の中で観察するが、風が強く動こうとしない。
27	曇			250	前日と数は変わらないが、南風が吹いたため氷が少し溶け水面ができ、その位置で集団で採餌している。よく見ると白鳥達が協力しあい、成鳥体の白鳥がリーダーになり、餌場の氷割りをしている様である。今朝集団で餌採り場を開いたものと思う。牧場下の方に長さ50m巾4mほどの水面がある。その作業のためか氷上で一羽の白鳥も寝ていない…一寸人間的な考えかもしれないが、生きるための最大の苦勞か。
28	晴			204	白鳥橋近くに集団になっている。例年この位置に集まると秋の渡去期の最後である。夜明からにぎやかである。根雪を白鳥は知っている様である。リーダー格に南下をせきたてられている様子にも見える。何れにしてもこの様子では、クッチャロ湖は完全結氷したのだろう。この川口に集まるのは一番水量のある川のため、この地区は結氷も遅いのである。
29				190	前日と同様の群れだが、オオハクは飛去ったのか不明。
50.12.1				47	吹雪も上り調査に行く橋近くに47羽より見られず。
4				70	結氷も上に雪が積り、その中の水分のある様な所に前日飛来したと思われる群れが入っていた。仮しているのか、時々何羽か飛上るが速く引返す。クッチャロ湖は何処も餌採場は無い、早く南下しなければ。
9	吹雪				少しの時間をみて湖の調査する。白鳥は飛去ったのか一羽も発見することができなかった。無事南下したものと思う。